

東日本大震災復興支援—————引き続き、みんなで支援しましょう！

風のアンサンブル事務局／〒156-0042 世田谷区羽根木 1-25-10 ☎03-3324-1776/FAX03-3324-3672

Mail ; canon0607@accordion-e-air.jp ホームページ <http://accordion-e-air.jp/index.html>

230人が集い、ヴィータマンスリーコンサートは大成功！！

アコーディオンとブラス「風のアンサンブル」12/16(金)

東日本大震災復興支援募金が 15 万円！



大震災とその後の原発事故という、未曾有の災害が起き、個人の暮らしも、大きな変化をこうむった去年でした。悲しい出来事、辛い映像、暗いニュースで、世の中は埋め尽くされましたが、そうしたなか、わたしたちはみんなで力を合わせて、年末のささやかなコンサートを無事終了することができました。

音楽と楽器という共通の趣味をとおして、あたらしい仲間と出会い、ひとつの目標に向けてがんばったこと。その貴重な体験によって、わたしたち一人ひとりの自信と勇気は、いっそう強くはぐくまれたことと思います。新しく迎えた 2012 年が、みなさまにとりまして、さらに充実した年になりますよう、祈っております。

さて、180 人余りの方々にご来場いただき、盛況のうちに幕を下ろしたヴィータ・マンスリーコンサート。聴衆の方々の感想は、どのようなものだったのでしょうか。演奏者、スタッフとして、もっとも気になるところです。以下、簡単にご紹介しましょう。



まず、アンケートに答えていただいた44人の方のうち、82%にあたる36人から、「大変良かった」「良かった」というポジティブな評価を得ました。ちなみに、「不満」はゼロでした。

興味のポイントとして、もっとも多かったのは、「アコーディオンのコンサートが珍しかったから」「アコーディオンの演奏って、どのようなものかと思って」「アコーディオンとブラスの組み合わせが珍しい」「アコーディオンを聞きたかった」というもので、お客さんの足を運ばせたのは、まずは楽器の魅力にあったようです。全体的な感想については。

- 心にしみる数々の音楽で癒され、いい気持ちになった。今後がんばってほしい。(70代。用事の帰りに立ち寄った)

- 幅広い年齢層の演奏者が、みんなで美しい音楽を届けてくれ、あたたかさが伝わってきた。(50代。たま広報を見て)

- 学校で弾いたことのあるアコーディオンが、オーケストラ編成になるとかっこ良い。とても楽しめた。(ポスター・チラシを見て)

他にも、アコーディオンとブラスの大編成が「迫力がある」「子どもさんたちの参加がかわいらしくて良かった」と、評価をいただきました。

選曲も、好評だったようです。

- バッハの「小フーガ」が良かった。アフリカンシンフォニーは盛り上がり、最高だった。(70代。たま広報を見て)

- 二時間飽きることなく楽しませてもらった。色々な楽器が参加し、多彩なジャンルの曲が散りばめられていて、うまく構成されていた。(70代。谷口楽器に置いてあったチラシを見て)

曲のバラエティーが豊かで良い、という感想は、数人の方からいただいております。

- 聴き慣れた音楽でいっしょに歌った。(60代。知人からの紹介)

- 大半の曲が耳に馴染んでいて、クリスマスの雰囲気も味わえて癒された。(60代。たま広報と知人からの紹介)

さらには、「また聞きたい」「続けてほしい」「70・80年代の歌をみんなで歌える企画をぜひ!」というように、同様の催しの継続を求める声が多くあがっており、今回のコンサートが、わたしたちの自己満足に終わったのではないことが、はっきりと示されています。

では、九月から練習にとりくんだ演奏者、スムーズな段取りを実現してくれたスタッフの思いはどのようなものだったのでしょうか。

コンサートを終えた感想について。

- 大きな充実感を得た。これからも練習を重ねて、次回につなげたい。
- 大勢で合奏できて楽しかった。いい経験になった。
- ほっとした。みんなで目標に向かってひとつになることの素晴らしさを実感した。

緊張したので終わってほっとした、満足した、安心、というのが、正直な気持のようで、数多く寄せられています。

今回の取り組み全体の感想について。

- 準備期間があったので、十分練習ができた。他のサークルと交流ができたことも、有意義。
 - 合同練習の頻度が適度で、モチベーションを上げることができた。
- と、事前練習を評価する声がある一方で、
- 限られた時間の中で、効率よく練習できるよう、各人の意識を高めて取り組めればよかった。
 - 全体合わせの正味時間がもう少し必要。
 - 事前準備をきちんとした上で本番に臨むことができたなら良かった。

など、反省点も指摘されました。今後の取り組みで、解決すべき課題となりそうです。



アコーディオン&グラス
風のアンサンブル

東日本大震災復興支援



コンサートの進行については、曲によって椅子や人の移動があり、複雑ですが、「本番はスムーズに行った」と評価する方が大半です。スタッフのみなさん、ご苦労さまでした。

ただ、「演奏開始前のホールで、音楽を流す必要はなかった。特に、演奏曲目と同じ曲を流したこのについては、いかがなものか…」という批評も。コンサートを盛り上げるための事前の雰囲気づくり。これも、これから考えなければならない重要な点になりそうです。

今後のコンサートの継続について。

「今回のことをベースに、継続できたら、と思う」「毎年は大変だが、機会があれば、ぜひ」と、コンサートの参加を望む声が多くあがっています。

最後に、みなさん口々に、ご指導いただいた川口先生、松村先生、そして陣頭指揮を執った後藤事務局長はじめ実行委員とスタッフのみなさんへの感謝とねぎらいの言葉を述べておられました。

今回の経験をテコに、みんなでさらに研鑽をつみ、また新しいプロジェクトにチャレンジできれば、すばらしいですね。

